

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立晃宝小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	86人	算数	86人	理科	88人
第5学年	国語	82人	算数	82人	理科	83人

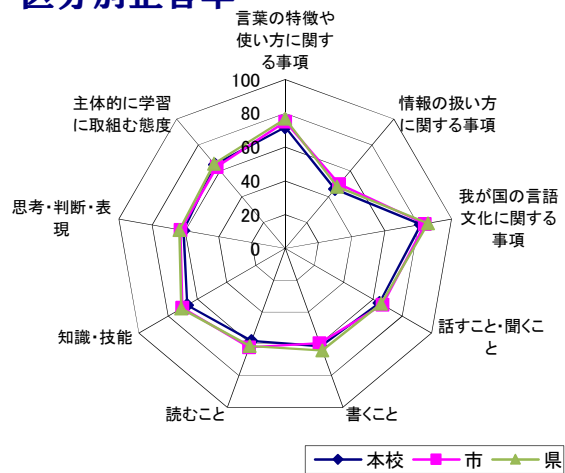
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	71.8	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	46.0	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	81.6	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	64.4	66.5	65.5
	書くこと	61.5	59.6	64.2
	読むこと	58.2	62.2	61.5
観点	知識・技能	67.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	61.1	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	64.8	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

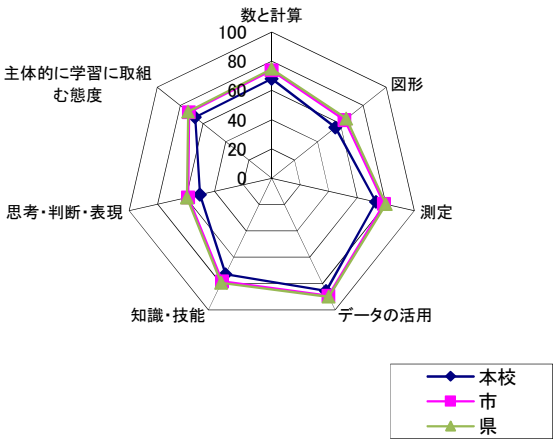
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を3.3ポイント下回った。 ○主語と述語の関係を捉えることやローマ字を読むことについての設問の平均正答率は、県の平均より高かった。 ●3年生で学習した漢字(熟語)を書くことや読むことについての設問の平均正答率が低く課題があった。特に3年生で学習した漢字(熟語)を書くことについての設問は、県の平均を10.7ポイント下回った。	・新出漢字の読み方や字形に注意させながら、繰り返し練習して漢字を覚えることを、引き続き、朝の学習や家庭学習で取り組ませる。また、文章を書く際には、今までに学習した漢字を意識して使うことを習慣付けられるよう、全ての教科の授業において指導していく。 ・「漢字辞典の使い方の学習」では、漢字の学習に活用できる力を身に付けさせるよう、丁寧に指導する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を3.6ポイント下回った。 ○国語辞典の使い方についての設問の平均正答率は、県の平均とほぼ同じであった。 ●説明文を要約する問題(短答形式)や、話し手が伝えたいことの中心を捉えて書く問題の平均正答率が低く、課題があった。	・調べたことを文章にまとめる学習では、いくつかの資料の中から必要な情報が書かれている資料を選ぶことができるよう、「物事を比較・関連付けて考えること」を丁寧に指導していく。 ・説明文の学習では、文と文の意味のつながりを理解させたり、繰り返し使われている語や中心となる語に着目して小見出しを付けさせたりするなどして、内容を整理する活動を今後も丁寧に指導していく。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均を2.4ポイント下回った。 ●漢字のへんやつくりの名前を選ぶ問題の平均正答率が県の平均より低く、課題があった。	・漢字の成り立ちや字の意味を理解できるよう、国語の授業や朝の学習、家庭学習の課題等で漢字辞典の活用を年間を通じて継続的に指導していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を2.1ポイント下回った。 ○話し合いの内容を聞き取る設問の平均正答率は県の平均より高かった。 ●話し手が伝えたいことの中心捉えて書く問題は、県の4ポイントを下回った。	・話し合い活動を通して話の中心となることがらをメモを取ったり、聞き取った話の内容に対して、共通点や相違点を踏まえて自分の考えをまとめたりする場を繰り返し設定し、聞く力を高めていけるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を1.9ポイント上回った。 ○自分の考えや、それを支える理由を明確にして文章を書く設問の平均正答率は県の平均より高かった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く設問の平均正答率は市と県の両方の平均を下回った。	・指定された段落構成で文章を書くことができるよう、教科書の教材文等を活用し、段落をつくることの意義や目的を確認したり、文章を視写する活動を取り入れたりしながら、段落の「型」を理解させる。また、基本的な構成に沿ってまとまりのある文章を書く技能を身に付けさせることができるよう、一人一人の子どもの実態に応じた支援も丁寧に行っていく。
読むこと	平均正答率は市の平均を2ポイント下回った。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有する設問の平均正答率が市と県の両方の平均を大きく下回った。	・物語文については、登場人物の気持ちや言葉・様子・心情の変化などに着目させながら指導を行う。 ・読書に親しませたり、文中に出てきた言葉を辞書などを用いて調べさせたりする活動を取り入れ、語彙力を高めるとともに、文章を読み解く力を身に付けられるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.0	73.8	74.8
	図形	55.6	63.7	65.3
	測定	73.1	78.9	80.1
	データの活用	85.6	89.3	90.0
観点	知識・技能	72.9	78.3	79.5
	思考・判断・表現	50.4	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	67.0	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

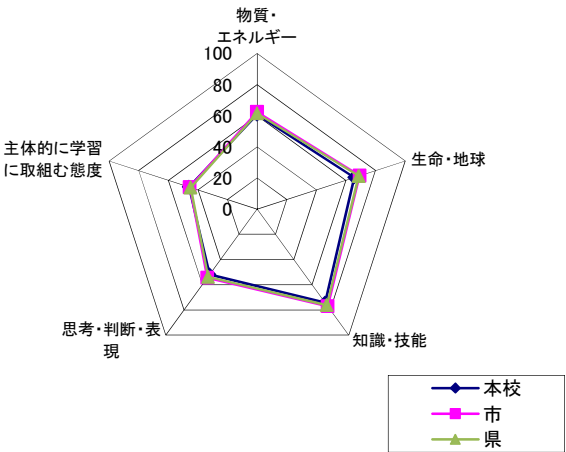
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「小数のしくみ」「小数の相対的な大きさ」「繰り上がり3回のたし算の計算」「2けた÷1けたの計算」「真分数のたし算の計算」の問題の平均正答率は、いずれも約85%以上で、県や市の平均正答率とほぼ同じであった。 ●「分数のしくみ」「整数-小数の計算」の問題の平均正答率は、県や市の平均正答率より低かった。また、2けた×1けたの暗算の仕方を説明する「わり算の余りを切り上げて処理する場合について説明する」問題の平均正答率が県や市より低く、課題があった。	・図を用いて演算決定をしたり計算の仕方を考えたりする活動を充実させ、四則計算の理解を図れるようにする。 ・計算の習熟を図るため、宮っ子ステップアップシートやAIDリルなどを活用する。 ・例えば、整数の乗法の意味や形式を小数、分数の場合にも考えられるように拡張して捉えたり、既習事項を適用して本時の学習問題を解決したりする態度を養っていけるように指導していく。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「円の直径について理解する」をねらいとした問題の平均正答率は、82.8%で、県や市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「同じ大きさのボールが6個入った箱の横の長さから球の半径を求める」問題の平均正答率が低く、課題があった。また、「円の中心と円周上の2点を結ぶと二等辺三角形になる理由を記述する」問題の無回答率が県や市と比べて高く、課題があった。	・具体物を操作する活動を取り入れたり視覚支援教材を使用したりして、図形の見方や間隔を豊かにしていくことで、図形の性質や構成要素について理解が図れるように指導の工夫を行う。 ・自分の考えを分かりやすくまとめることができた児童の発表を聞き合ったり、お互いの考えのよさを認め合ったりする場面をもちながら、児童が自分の思考の根拠を適切な言葉で記述できるよう指導していく。
測定	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「時刻と時間」「長さ・重さ」に関する問題の平均正答率は、市や県の平均正答率より低く、課題があった。	・量の単位や測定の学習については、児童にとってイメージしやすい身近なものに置き換えて学習する場面も入れるなどの工夫をし、基礎的・基本的な学習内容を理解させていく。 ・例えば、長さ、かさ、重さの単位について整理した表から共通する関係について、図や文章でまとめたりして考察し、単位についての理解をさせるような学習活動を今後も十分に行っていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「棒グラフを読み取り、2番目に多かった組を指摘する」問題の平均正答率は、87.4%で、県や市の平均正答率とほぼ同じである。 ●「棒グラフの1目盛りの表す数を答える」問題の平均正答率は、83.9%であったが、県や市の平均より低く、課題があった。	・同じデータを異なる目盛りの付け方で表したいいくつかのグラフを比較する活動なども取り入れながら、グラフを正しく読み取ることができるように指導する。 ・表やグラフから特徴や傾向を捉えたり考察したりしたことを、表やグラフのどの部分からそのように考えたかを伝え合う場面では、児童が自分の思考の根拠を適切な言葉で記述できるように指導していく。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	60.7	62.5	61.5
	生命・地球	65.6	69.2	68.6
観点	知識・技能	74.3	77.2	76.3
	思考・判断・表現	51.9	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	46.1	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「音のせいしつ」の問題では、大きい音は、ふるえも大きくなることを選択する問題がよくできている。また、糸電話の音の伝わり方をもとに、糸をつまんだ箇所を選択する問題もよくできている。自ら課題をもち追求する学習を学校全体で推進している成果であると考えられる。 ●水を入れたペットボトルが光を集めたことを、虫眼鏡に適用できる理由を答える問題の正答率が40%で、県平均より低く、また、無回答も14.4%と多かった。	・領域内の基礎的知識は定着しているが、それを利用して文章を読み取り、記述する問題を苦手とする児童が多い。文章問題に取り組む機会を増やしたり、実験などを行った際に予想や結果を自分の言葉で考えさせ、友達同士で伝え合う活動を多く取り入れたりしていく。 ・応用問題などの文章問題における場面設定になれるために、身近なものに関連した問題に取り組ませるようにする。また、どうしてそう考えたのかを理由立てて説明できる力を育てていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○虫眼鏡の使い方を正しく理解している。また、モンシロチョウの幼虫を選択する問題もよくできている。「身近な自然の観察」や「植物の育ち方」、「こん虫の育ち方」の基礎問題は、どれも正答率が8割を越えている。身近な昆虫や植物を探したり育てたりする経験が、知識の定着につながっていることが分かる。 ●「太陽と地面のようす」では、温度の変わり方を比較する方法を考えることや、太陽の動きとかげの動き方を指摘することに課題が見られる。	・体験をたくさんしたもののほど知識・理解が深まっているため、今後も植物や昆虫など多くの体験学習を取り入れ、全員が理解できるようにしていきたい。また、問題・予想・計画・観察または実験・結果・考察・まとめの流れをていねいに指導し、体験して得た知識を定着できるようにする。 ・一日の太陽の動きとかげの動きが理解できるように、生活全体で太陽やかげの動きについて興味をもつような問いや観察の場を作っていく。

宇都宮市立晃宝小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童の割合は9割を超えており、学習の重要性を理解している児童が多い。また、「テストでまちがえた問題について勉強をしている。」「宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」と回答した児童は、いずれも県や市の平均を上回っており、復習や自主学習が定着しつつあると考えられる。

○「家で勉強するときにだいたい同じ時刻に取り組むようにしている。」と回答した児童は、県や市の平均を上回っている。家庭での学習習慣が定着しつつあると考えられる。

○「勉強していて、面白い、楽しいと思うことがある。」「授業を集中して受けている。」「先生は学習のことについてほめてくれる」と回答した児童の割合は9割を超えて県や市の平均を上回っている。今後も授業を充実させ、一人一人の学力を伸ばすことで、これらの思いを多く味わわせたい。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」「毎日の生活が充実していると感じている。」と回答した児童の割合は9割を超えている。自分の将来の生活に今学んでいることが大切だと理解し、それを毎日の生活に生かしていると考えられる。今後も学習を頑張ることは充実した生活につながることを指導していく。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は、県や市の平均を超えており、学校生活の中で、一人一人が自分のもっている力を生かし認めてもらっていると実感し、責任をもって仕事に取り組んでいると考えられる。今後も、児童の自己有用感をさらに高められるような設定や支援を心掛けていきたい。

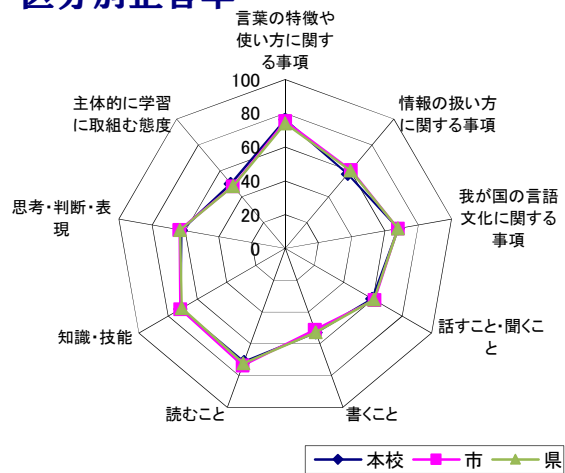
●「1か月に何冊くらい本を読みますか。」の回答は「1～2冊」が最も多く、県や市の平均より低い傾向である。朝の読書や図書室利用の機会を有効に活用して読書活動の充実に努める。

●「毎日朝食を食べている。」「早寝早起きを心がけている。」と回答した児童の割合は県や市の平均を下回っている。学級活動や保健学習等で食育や生活習慣に関する指導を繰り返し行うとともに、保険だより等で家庭への啓発に努める。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	76.2	75.4	74.1
	情報の扱い方に関する事項	57.5	60.5	60.2
	我が国の言語文化に関する事項	67.9	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	59.5	61.0	60.7
	書くこと	53.0	51.2	52.8
	読むこと	71.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	71.6	71.7	70.6
	思考・判断・表現	62.5	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	50.0	48.2	48.1



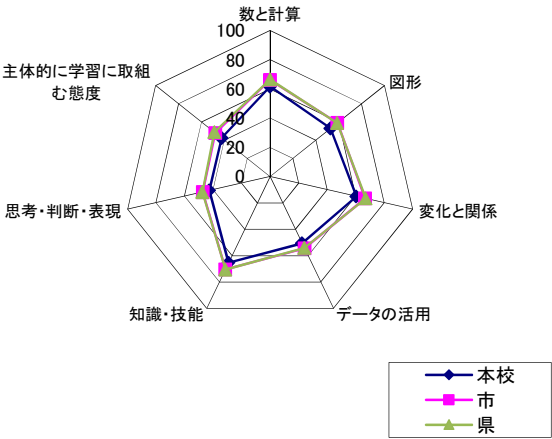
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている」をねらいとした問題の平均正答率は83.3%で、市の平均とほぼ同じであり、定着していると考えられる。 ●「連用修飾語について理解している」をねらいとした問題の平均正答率は市の平均とほぼ同じであるが20.2%で、課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・AIDリルの活用や、教科書の意味調べなどを通して、日常的に漢字や語句に関心をもたせることで言語への理解を深められるよう指導する。 ・漢字ドリルや漢字ミニテストを計画的に行うことで、当該学年の漢字の定着が図れるようにする。
情報の扱い方に関する事項	○「漢字辞典の使い方を理解している」をねらいとした問題の平均正答率は、77.4%で市の平均とほぼ同じである。 ●「情報と情報の関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している」をねらいとした問題の平均正答率は、35.7%と市を3ポイント下回った。説明文を正しく読み取り、説明することに課題が見られる。	・題材の導入の際に、辞書を活用し意味調べを行っていることに効果があると考えられるため、活用していく。 ・自分の考えを書く際に、理由や事例を取り入れながら説明させるような演習を取り入れる。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「ことわざの意味を知り、正しく使っている」をねらいとした問題の平均正答率は、67.9%と市の平均とほぼ同じである。	・自主学習やAIDリルで「ことわざ」や「慣用句」に触れる機会を取り入れることで、さらに定着を図れるようにする。
話すこと・聞くこと	○「司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめている」をねらいとした問題の平均正答率は、53.6%で市の平均を上回っている。 ●「意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている」をねらいとした問題では、平均正答率29.8%と市の平均を下回っており、話を聞きながら、共通点や相違点に着目して、大切なことをまとめることに課題が見られる。	・小集団や班別活動において話し合い活動を積極的に取り入れ、相手の意見を理解し聞き取り、メモに残したり、自分の考えを相手に伝えたりする活動を通して、話の要点を押さえて聞く力を養う。
書くこと	○「指定された長さで文章を書いている」をねらいとした問題の平均正答率は69.0%と県平均よりも高く指定された条件に沿って書くことができたと考えられる。 ●「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている」をねらいとした問題の平均正答率は、50.0%で、市の平均を下回っており、無回答も15.5%だった。	・指定された条件を必ず入れて文章を書くことができるように、朝の学習の時間等を活用して短文づくりの演習を繰り返す。
読むこと	○「文章を読んで感じたことや考えたことを共有している」をねらいとした問題の平均正答率は、91.7%で市や県の平均とほぼ同じである。 ●説明文の「叙述を基に文章の内容を捉えている」や「叙述を基に段落相互の関係を捉えている」をねらいとした問題の平均正答率は、どちらも市や県の平均を下回り、説明文の読み取りに課題が見られる。	・文章構成を考えながら「要旨」にたどり着くことができるように、事実と意見を区別しながら順を追って丁寧に読み取る活動を続けることで、読み取りの力をつけるようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.6	66.1	66.4
	図形	52.9	58.9	58.8
	変化と関係	60.5	66.6	67.0
	データの活用	50.6	54.4	54.2
観点	知識・技能	65.4	70.4	70.6
	思考・判断・表現	42.6	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	42.5	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

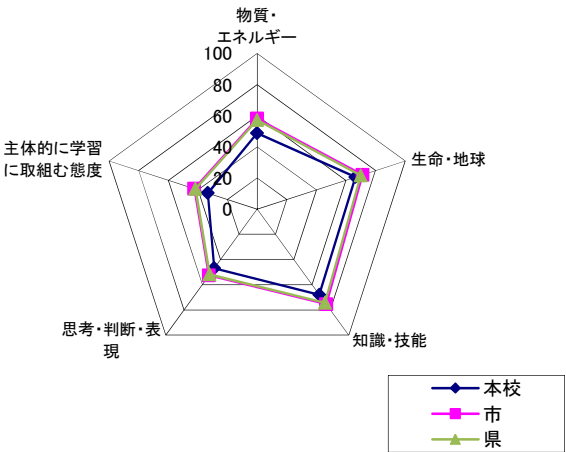
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「億と兆・がい数の表し方」「わり算・計算のきまり」「小数」「分数」のすべてにおいて市・県平均値を約3～5ポイント下回っている。特に「小数×整数」「小数÷整数」「乗除の立式」に課題が残った。	・朝の学習の時間に、四捨五入を使って指定した概数を表せるようにプリント学習を行う。 ・計算の習熟を図るため、宮っ子ステップアップシートやAIDリルなどを活用する。 ・5年生の学習を進めるにあたり小数、分数の意味の確認や既習事項を復習する時間を作る。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「角の大きさ」は県平均値とほぼ同じである。 ●「いろいろな形」では、作図が正確にできていない児童が多い。「面積」は深刻で、市・県平均値より10ポイント下回っている。	・面積について数字と実際の大きさを照らし合わせるように身近な場所をつかって、体験的な学習を取り入れていく。 ・図形に合わせた面積の公式や単位の定着を図る。 ・定規やコンパスを使う機会を増やし、道具に慣れさせる。 ・朝の学習の時間に、作図のプリント学習を行う。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「変わり方調べ」「簡単な場合についての割合」とも市・県平均値より5～8ポイント下回っている。文章や表から数量の意味を読み取り、立式することができない児童が多く、課題が残った。	・立式を行う場合は、表や図、数直線の見方や立式につながる活用の仕方を丁寧に指導し、授業を展開していく。 ・5年生の「割合」の学習の時に、図や数直線を使って「基準量」「比較量」「割合」をとらえられるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ●「折れ線グラフと表」は、グラフから変わり方を読み取ることに課題が残った。	・グラフの特徴を読み取れるよう、縦軸、横軸の数値の意味について再度指導を行い、定着を図るようにする。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.8	58.1	57.2
	生命・地球	66.4	71.1	70.0
観点	知識・技能	68.0	75.5	74.4
	思考・判断・表現	46.9	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	33.3	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「物の体積と温度」は市・県平均値を上回った。 ●「電気のはたらき」において市・県平均値を約15ポイント下回っている。特に回路を作図する問題では無回答が9.4%であり、電気器具の記号の定着に課題が残った。 ●「物の体積と力」「水のすがた」「物のあたたまり方」において、市・県平均値を約10～12ポイント下回っている。特に「水のすがた」「物のあたたまり方」の結果をもとに考えられることを記述する問題では、無回答がそれぞれ9.4%と14.1%となった。結果や事実から分かったことを考え、文章にすることができない児童が多く、課題が残った。	・実験や作図など具体的な操作を通し、実感を伴って理解できるように指導していくことで定着を図っていく。 ・スマイルネクストドリルを活用し繰り返し問題を解いたり、ICTを活用したりして視覚的効果を生かした学習を進められるよう指導する。
生命・地球	平均正答率は、市の平均を下回った。 ○「1年間の植物の成長」「雨水のゆくえと地面のようす」「天気のようにと気温」は県平均とほぼ同じである。 ●「1年間の動物のようす」「動物のからだのつくりと運動」は市・県平均を約6ポイント下回っている。1年間を通した動物の暮らし方や筋肉・関節などのからだのつくりで課題が残った ●「月と星」市・県平均を約9%下回っている。特に方位磁石の使い方や1日の月の動きに課題が残った。	・器具の適切な使用の仕方について振り返る機会を設け、定着を図っていく。 ・月と星に関しては、太陽・月・星の動き方や方角について正しく理解できていないことが予想されるため、ICTを用いて映像教材を活用するなど地球の周りの動きを捉えるとともに、星の観察を通して、実際の夜空ではどう動いているのか体験することで十分な理解を図る。

宇都宮市立晃宝小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」と回答した児童はの割合は89.7%、「学習して身に付けたことは、しよ来の仕事や生活の中で役に立つと思う」と回答した児童の割合は、79.3%と、県の平均と比べて学習の重要性を理解している児童が多い。今後も、宿題や自主学習の充実を図ったり、学習内容と普段の生活を結びつける支援を行ったりして、学習の意欲を高めていきたい。

○学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。」では、「10分以上、30分より少ない」と回答した児童の割合が、市や県の平均よりも高かった。また「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問に関しては「3～4さつ」と回答した児童の割合が高く、市や県の割合を上回っている。今後も学校図書館の積極的な活用や家庭での読書の大切さを促し、読書の大切さや有益さを味わわせるとともに、文章読解力の向上にもつなげていけるように支援を続けていきたい。

○「授業を集中して受けている」と回答した児童の割合は、95.4%と高く、学習に前向きに取り組んでいる様子がうかがえる。今後も児童が意欲をもって取り組めるような授業の展開の工夫や学習形態の工夫などを行うことで、更に意欲を高めていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う。」と回答した児童は、81.6%で県平均と比べて2.4ポイント高く、自己肯定感の高さが見られた。学級活動や児童会活動などを通して、自分の役割の大切さや仕事への満足感を実感させられる活動を今後も続けて、自己肯定感をさらに高めていきたいと思う。

●「毎日、朝食を食べている。」と回答した児童の割合は82.8%で、8割を超えているが、市や県の平均と比べると5ポイント近く低くなっている。学級活動や給食指導、食育だよりや保健だよりなどでの家庭への啓蒙活動をさらに推進し、今後も食育に関する指導の充実に努めていきたい。

●「地いきや社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童の割合は71.2%と、県や市の平均と比べると3ポイントほど低くなっている。テレビやインターネットなどのニュースを見ている割合は低くはないので、今、社会でどんな出来事が起こっているのか関心をもって見るなど、グローバル化を推進していきたいと思う。

宇都宮市立晃宝小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○基本的な学習習慣の定着のための指導の徹底 ○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の実践に関する研究 ○基礎・基本の定着	○学習用具の確実な準備や学習のきまり、発表の仕方、話を聞く態度などの学習態度や学習技能を育てる指導を学校全体で取り組んでいる。 ○主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業の改善を学校全体で研究している。 ○単元のプレテストやまとめテストで児童一人一人の実態を把握し、個に応じた支援を行っている。	○「授業を集中して受けている」という質問の肯定的回答率は、4年生96.7%、5年生95.4%で、市や県よりも高かった。 ○「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。」という質問の肯定的回答率は、4年生82.2%、5年生87.4%で、市や県よりも高かった。 ○各教科の標準スコアは、4年：国48.5、算46.4、理49.0、5年：国50.2、算47.6、理46.9であった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○基礎・基本の定着	○基礎・基本の定着とを目標とした学習指導の工夫と家庭学習の習慣化	○学年でパワーアップシートや宮っ子ステップアップシート、AIDリル等を授業や朝の学習、家庭学習で活用していく。 ○習熟度別学習、少人数指導やT・Tによる指導等の個に応じた支援を充実させる。

